

練馬産稲穂で お正月飾りを作ろう！

大泉リサイクルセンター

昨年12月に初めて実施し好評を得た講座
「練馬産稲穂でお正月飾りを作ろう！」の
ご紹介です。今年も大泉リサイクルセンターの
ボランティアが区内の自宅で稲を育て
収穫し講座の準備を進めています



お正月のしめ縄飾り

お正月は本来新年の神様である年神様を迎え、祀る行事。
年神様は各家々に生きる力、幸せを授けてくれると
考えられていました。そのためお正月前にしめ飾りで
年神様を迎え、祀る準備をしました。しめ飾りは神様を祀る
神聖な所に不浄なものが入らないように守ってくれます。

正月飾りの稲穂にはどんな意味がるのでしょうか。
本来稲の収穫は秋で、お正月とは季節が違いますが、
しめ縄として飾るようになったのは新しい年も
多くの食物が実り、人々が食べ物に困らないように
との願いが込められていました。



大泉リサイクルセンターのボランティアが12月の講座実施に向けて稲を育てました

4月上旬



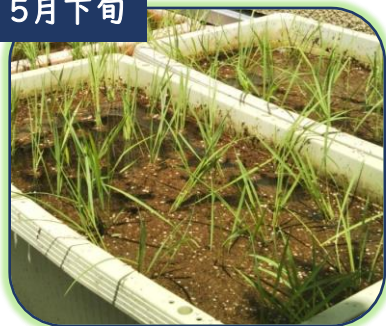
発芽準備。
塩水に浸し
沈んだ種もみを
牛乳パックで
作ったポットの
「苗代」に植えます

5月上旬



4日前後で
発芽して
5月上旬には
10cm程度に
育ちました

5月下旬



ポットで苗の根を強くし、
プランターなどに田植えをしました

7月中旬



約70cmまで成長しました

8月上旬



出穂(しゅっすい)、
穂が出て花が咲き始めたところ

9月上旬



稲の穂がたれ始め、
刈り取る2週間前から水やりはしません

9月下旬



早い家では稲刈し「はさがけ」で
2週間乾燥しました。
雨の日は片付けました

稲を育てた
ボランティアが
徒歩か自転車で
センターに
持参するので
運搬エネルギーは
ゼロに近い!?



「はさがけ」とは

米は刈り取った時点で水分が20~30%含まれていて、カビが生えたり芽が出たりしてしまうので品質が保てないため「はさがけ」で水分量を下げます。現在はコンバインで稲刈りをしながら同時に脱穀を行うため、「はさがけ」はせず脱穀した稲を機械乾燥するのが一般的です



「はさがけ」の利点

- ①機械乾燥よりゆっくり乾燥させるので粒が割れにくい
- ②穂の形が残ったまま乾燥するのでその間も実りが進む
- ③省エネ乾燥



ボランティアの皆さん（環境グループ）

昨年講座の様子



講座ではワラから縄をない オリジナルの正月飾りを作りました

- 米文化や食料自給率についてお話し、農業や地域の農産物への関心が高まりました
- 地産地消やフードマイレージについてもお伝えし、考えました

おしらせ



当センターでは本年も「練馬産稲穂でお正月飾りを作ろう」講座を12月開催予定です。詳しくは、11/21発行の「ゆずりは」またはHPをご覧ください。

※新型コロナウイルスの感染防止のため、講座・催しが中止になる場合があります